

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成27年度 技術情報第3号（チャの炭疽病）について（送付）

このことについて、下記のとおりとりまとめましたので送付します。

平成27年度 技術情報第3号

- 1 対象病害虫 炭疽病
- 2 対象作物 チャ
- 3 対象地域 県本土及び熊毛地域
- 4 情報の内容

一番茶摘採後の残葉や遅れ芽に炭疽病の発生が多く認められる。今後、梅雨期に入ると二・三番茶期に発病が増加し被害拡大が懸念されるので、「やぶきた」など発生が多いほ場では二・三番茶萌芽～1葉期に薬剤防除を実施する。

5 情報の根拠

- (1) 前年秋期（10月）の巡回調査における発生ほ場率は53.2%と平年（36.8%）より高かった。また、 m^2 あたりの発病葉数も7.2枚と平年（4.2枚）より多く（表1）、一番茶への伝染源となる病葉は多かった。
- (2) 県農業開発総合センター茶業部における定点無防除園での調査では、5月上旬は一番茶摘採残葉に伝染源として活力の高い新発病葉が急激に増加し、 m^2 あたりの発病葉は402枚と平年（16.5枚）よりかなり多くなっている（表2）。
- (3) 本年は一番茶芽の生育にバラツキがあり、現地ほ場においても一番茶摘採後の残葉と遅れ芽に新発病葉が多く認められている（達観）。
- (4) 例年一番茶芽への発生は少ないが、本年は4月上中旬に降雨日が多く、気温も高かったことから、新葉へ感染が起こりやすい気象条件であった。
- (5) 鹿児島地方气象台による向こう1ヶ月の天候予報（平成27年5月7日発表）では、九州南部の降水量は、「平年並みか平年より多い」と予想されている。

表1 平成26年10月の巡回調査における炭疽病の発生ほ場率及び発病葉数

	H26年	平年	平年比
発生ほ場率 (%)	53.2	36.8	1.4
発病葉数 (枚/ m^2)	7.2	4.2	1.7

※病害虫防除所が実施した県内20地点（全34ほ場）における調査結果

表2 農業開発総合センター茶業部（定点無防除園）における炭疽病の発生推移
 （単位：㎡あたり病葉数） （平成27年4月上旬～5月上旬）

月	旬	本年	前年	平年
4月	上	11	0	79.5
	中	7	0	45.5
	下	10	0	21.1
5月	上	402	2	16.5

6 防除対策及び防除上注意すべき事項

- (1) 一・二番茶摘採残葉での発生に注意し、発病葉の多いほ場では、二・三番茶芽生育初期の防除を行う。
- (2) 二・三番茶芽の上位葉は収穫されるが、摘採残葉として残る下位1～2葉を守るために萌芽～1葉期に予防防除する。
- (3) 二・三番茶芽の生育期に降雨が続く場合は感染・発病に十分注意する。
- (4) 「やぶきた」等の本病に弱い品種は特に発生に注意する。
- (5) 二・三番茶期は、萌芽から摘採までの期間が短いので、薬剤の使用時期（摘採前日数）に十分注意する。
- (6) 多発状態の続く茶園では整・剪枝（深刈り等）により伝染源を除去する。